



いのうただたか

伊能忠敬 下呂測量来訪

伊能忠敬は、50歳を過ぎてから日本全国を測量して歩き、わが国最初の実測日本地図をつくりあげた人物です。その伊能が文化11年(1814)4月13日、下呂にも測量に訪れた事実が測量日記(国宝)に綴られています。昨年は伊能の没後200年を記念し来訪時に宿泊した本陣飛騨屋邸の跡地に伊能忠敬の顕彰碑が建立されました。今回、その顕彰事業の実行委員長、武川光雄氏にお願いし測量方法やエピソード、歴史的意味等をお話しいただきます。



忠敬肖像画

測量器具



「高象限儀中」



「高半円方位盤」



「高杖先方位盤」

千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵

3/10 (日) 

13:00 開場 13:30 開講

講師：伊能忠敬下呂測量来訪顕彰事業実行委員長
武川光雄氏

会場：下呂交流会館 マルチスタジオ
入場無料

主催：(一財)下呂ふるさと文化財団

■講師 武川光雄氏 プロフィール

1949(昭和24年)下呂市生まれ。大学卒業後家業を継ぐべく地元へ帰り現在に至る。その間、下呂温泉観光協会理事、下呂商工会理事、湯之島区長等を歴任し現在、温泉寺の総代も務める。元来、歴史・地理が好きで、仕事の合間に北は稚内から南は石垣島まで全都道府県を訪ねた。目的とする城・街道・寺社等を定め独自に計画を立て実行した。